

は、海老の名によりて、祝壽の物とする也。

〔物類稱呼_二〕海鰻ゑび 關東にていせゑび、關西にてかまくらゑびと云、又年の始にかざり海老とする物は、關東にてもいせゑび也、西國にては其海の產なれ共、いせゑびと呼、又江戸にて小なる物を芝ゑびといふ、大坂にて備前ゑびといふ、

〔大上臘御名之事〕女房ことば

一えび か。み物。

〔庖厨備用倭名本草魚〕鰻_八○中 鰻味甘性温小毒アリ、治病ノ功多シ、陽道ヲ壯ニシ、乳汁ヲ下シ、痘瘡ヲ托出ス、煮汁ハ風痰ヲ吐ス、羹ニスレバ鼈痕ヲ治ス、五野雞病ヲ主ドル、小兒ノ赤白遊腫ニハツキクダキテ付ル、ツキタマラシ膏トナシテハ蟲疽ニ付ル、食禁、水田溝渠ニ生ジタルハ毒アリ、鮓ニシテハ尤毒アリ、熱飯ニテ鮓ニシタルモ毒アリ、死スル時ニ鬚ナキモノ、腹下通黒ノモノ、煮テ色白クナルモノ皆毒アリ食スベカラズ、小兒モ雞狗モ食スレバ、脚カマリテヨハシ、猫ニ食セシムレバ腰カマル、病人多食スレバ風氣ヲ動シ疥ヲ發ス。

海鰻○中 海鰻味甘性平毒アリ鮓ニシテ飛尸蛇蟲ヲ主ドル、口中ノ甘蠶齶齒ニヨシ、頭瘡ニモヨシ、疥癬風瘡身痒ヲサリ、山蚊子人ノ肉ニ入タルヲ治ス、初食シテ瘡發スレバ則愈ル也、

〔本朝食鑑九〕

江海無鱗鰻比惠

釋名海老

源順曰、俗用海鰻之名、二今爲海鰻

集解大抵鰻者礫鬚鉄鼻、背有斷節、尾有硬甲、足多好躍、其腸屬腦、其子在腹外煮之如榴花、有海河二種伊勢鰻、鎌倉鰻者海鰻之大也、眼紫黑而前有黃處、突出如疣子口、有四鬚、其兩鬚長過一二尺、其兩鬚如長針根似針柄而有硬刺、殼如鋸沙而尖手足有節如蘆筍掌指如毛、肉上之殼有節、是近尾硬甲也、尾端如花葩俱紫色、煮則變紅、是紅鰻龍鰻之類乎、本朝自古稱海老以爲賀壽饗燕之嘉穀